

坊ガツル湿原 野焼き

坊ガツルは、日本でもよく知られている伝統的な春の野焼きの対象地域であり、これを行うことで新しい草がよく生えるよう促しています。坊ガツルでは、シダ、牧草、および他の植物の多くの種が記録されています。この中でいくつかの種はこの地域特有であり、保護または絶滅危惧種に指定されています。植生を維持し、低木や木々の広がりを抑制し、草原を元気に保つために地域では、訓練されたボランティアの助けを借りて、毎年春にこの野焼きを実施しています。

ボランティアは、9月頃から作業をはじめ、この湿原をいくつかの小さなセクションに分けます。管理しやすいいくつかのセクションに分けて燃焼させることで、野焼きをする必要のない場所への延焼を防ぐことができます。

3月の野焼きの時期が来ると、野焼きを行う地域の両端に火をつけ、火が真ん中へ燃えるように調整します。そうすることで、最終的には燃えるものがなくなり自然消滅します。ボランティアは、火があまりにも大きくなったり、制御不能になったりするようなことがないよう、火の調整を行うのに役立つウォータージェットを用意しています。非常に深い湿地帯を除き、浅い水域や乾燥地帯は簡単に燃え広がります。春の野焼きは、坊ガツル湿原の再生を効果的に管理する方法として機能しています。